

第2回 接合科学研究所 定例記者発表 を開催しました

事務部 庶務係 大石 萌可

2025年8月27日に大阪大学中之島センターにて、接合科学研究所 定例記者発表を開催しました。第2回目となる今回は、3つのテーマについて発表しました。まず初めに、藤井英俊 所長が開会挨拶の後、研究所近況報告として、AM(Additive Manufacturing)、および 月面1万人都市構想に向けた独自技術開発の取り組みについて紹介しました。本年5月に本学産業科学研究所に設置された「月面都市開発研究センター」には、本研究所から最多の教員・研究者が参画し、接合研の持つレーザ技術、AM技術などの独自開発技術をもとに、研究に取り組んでいる状況を説明しました。

次に、桐原聡秀 教授が「AM技術者の国内/国際認証制度」をテーマに発表を行いました。産業調査を通して、AM実践における体系的な知識習得の重要性を再認識し、接合科学研究所が（一社）日本溶接協会の活動を全面に支援する形で、AM技術者の国内ならびに国際認証制度を設立しました。国内初のAM技術者（2級）研修会が2025年3月に東京で開催され、9月には大阪でも開催されます。今後は、大阪大学の大学院高度副プログラムとしてAM講義群を開講するとともに、社会人を対象としたコースも別途開設し、グローバルAM人材の育成を図る予定です。

最後に、麻寧緒 教授が「船舶補修への応用を目指した新溶接施工法の開発」をテーマに発表を行いました。低変態温度(LTT: Low Transformation Temperature)を用いる新しい溶接施工法「LTT伸長ビード溶接法」の開発により、船舶の耐用年数25年の間での再補修フリーを実現し得る「従来より4倍以上の疲労寿命延伸」を達成しました。この溶接施工法は、株式会社三和ドック、長崎総合科学大学および株式会社神戸製鋼所と共同で開発され、当日は共同開発者の株式会社三和ドックの技術者の方や平岡和雄先生にもお越しいただきました。
[\(発表の概要はこちら\)](#)

記者発表後も記者の方からたくさん質問をいただき、有意義な時間となりました。今後も定期的な記者発表の開催を行い、溶接・接合科学の研究成果を積極的に発信することに取り組んでまいります。



麻寧緒教授 藤井英俊教授 桐原聡秀教授



会場の様子